

唯其形成に與かり働くものとするのみ。さて所謂氏の解釋は如何氏の曰く

「既に示したる如く、凡そ未開人が人名を附するは其生れたる時の偶然事に依れるが多し。Mason 氏が記せる如く、Karen 人には「暮」月の出等の名を附くる者あり。さればタスマニヤの一婦人に日光の義なる Ploora-na-joona てふ名を有せるがあり又其隣國人なるアウストラリヤ人には「雷、風等」を名とせるがある如きも、決して例外にあらず。此故に上來の推論と一貫して戻らざる推論は正に次の如からむ。曰く、かゝる神話發生の第一段は嵐及日光てふ名を有する人間の存在是なり。而して其等と其同名の自然力とを相混同するに至るは避くべからざるの勢なり。其結果として、此等自然力は人格化せられて人間的起原を附與せられ、茲に種々の冒險譚などを生ずべし。かゝる話譚一度生ずれば、後次第々々に、自然現象と適合するやう改造せられ敷衍せられ行くなりと——

今ツイゴアの神話に、此社會學的解釋を適用せむか、スペインサー氏は曰はむとす。昔しホッテントットに一つの醫者あり、偶然の事によりて膝に負傷す、其死後、祖先として拜せられ、終に最上神とせられ、雷雲の降下、家畜、果實の豊饒を祈らるゝに至りしなりと。かくて氏は此傳説を事實として肯定するならむ。否、恐らくは尙一步

を進めて、ツイゴアとグンナブの争、及其一人の膝の負傷等の譚をば、之れと相似たる譚を提げ來りて相比較せんとせらるゝならむ。氏は他宗教を基教と比較するは危険なりとし、頻りに警戒を加へらる。而かも氏自らは決してかゝる危険を恐るゝの人ならじ。氏の曰く(四三四頁)

「西班牙人がメキシコに着したる時、土民は彼等を神と思ひ、人身犠牲を供したり、との話を讀む者は必ずや、此人民の思想は、かの Odin 神に己れの子を献げたるスカンデナヴィヤ王 Oth の思想と相似たらずやと問はむ。之れ決して無理ならじ。されどアブラハムがイザヤを犠牲にせんとしたるも亦同一思想に由るにあらずやと云ふは許すべからず。人若し、Bart 博士が Fula 人に其國神 Fote なりと思はれたる話を聞き、而して、博士の仲間とフラ人との間に争起り、博士はフラ人の酋長に打負されたりと聞かば、こは Ares 神が Diomede に負けたる話と同系の譚にあらざるかと問ふならむ。是も亦至當なり。されど、ヤコブが神と角力ひたる譚と同種類のものとするは甚だ非なり。されば、吾人苟も科學的研究法を遵守する以上は、ヘブリウ思想をも他のと同一様に處理せざるべからず。是も亦同系の發生起源を有するにあらずやと尋究せざること能はずと——

然りスベンサー氏、氏何の恐るゝ所かあらむ。今日は、もはや焼殺の刑は存せず。些の證據だにあらば其信ずる所を主張するに何の憚ることか。是あらむ。されば、要は、ヤコブと角力ひたる相手は果してバート氏の如く、一个の人間なりしや、若しくは、猶太人は嘗て、しかく考へ居たりしことあるや如何てふ問題に歸着するなり。スベンサー氏にして若し能く此點に付て何等か確證を提出するを得べしとせば、ツイゴアブがガンナブに膝を傷けられたると、ヤコブが腰骨の挫けたるとの類似は、適以て氏の説を強ふするに足るものあらむ。されど今は吾人は、ハーン氏の云ふ所を聞かむ。

氏は、コイコイ人は何故に、跛足の醫者を最高神となしたるかを怪めり。而かも、此神の意味が跛の膝なることは土民の毫も疑はざる所なりと云ふ。思ふに是正に、古印度人が太陽神 *Savitri* は金製の義手を有すとして疑はざりしに同じからむ。鬼も角此事は決して動かすべからず。是に於てか、ハーン氏は其字義即、其名の史的起原を詮索せり。氏によれば *Goah* は *Goh* (歩む、近づく)てふ根語より來る。*Goah* は動詞としては、來る彼即ち、彼來るとなり。實名詞としては、來る者、近づく者を意味す。最初は、歩行者を意味せし此 *Goah* は又、膝の意味にも用ゐらる。然るに又別に、日

特に、近づく日の意味をも有す。*Goah* とは、曙すを意味す。此他、此根語 *Go* よりして多くの語出てたり。但しかく、る事は今詳述するの要なし。唯、こゝには、一つの一般的の根語よりして多くの特殊の語の出で來れる模様の、コイコイ語と梵語との間にいたく類似せるものある由を聊か讀者に驚かし置かんとするのみ。

却説、*Goah* は「朝」を意味するとせば、*Go* は何を意味するぞと云ふに、一般には「痛さ」の義、されど又「淋漓」赤色の義もあり。之れ *Go* が元は「淋漓」の義なりしに今は「赤さ」をも意味せると同じ。血てふ語が「赤」を意味するに至る由は學者の先刻御存知の事ならむ。若し *Go* に「赤さ」の義あること疑はしとならば、*tsu-goah* は何故「夜」を意味するか、其理辯へ難からむ。*tsu* は去るの義なり。故に *tsu-goah* は「去れる」彼なり。若し *tsu* を「痛さ」の義に解せば「痛さ」者去れりとなる。かくては全く義をなさず。若し *tsu* を「赤」の義にせば「赤さ」者去れりとなる。是に於てか、そが「夜」の意味となること合點さるべし。

今は「痛さ」膝の義となれる *tsu-goah* は元「赤さ」曙或は朝の義なりしを知らば、そが最上神の名となれること怪むに足らず。跛足の醫者にては通ぜざるも、奪る自然なりと云ふべし。光れる空、*Dayas* は最上神となりしにあらざるや。夫より出でたる

Dien は今もなほ至高神を意味せるにあらざるや。

請ふ更にツイゴアブの話譚は老醫者に適しきか若しくは昇る太陽即ち光と生の授與者にふさはしきかを檢せしめよ。

物語によれば曰くツイゴアブは東方より來る。曰くツイゴアブは赤き天にガンナブは黒き天に住す。曰く夜の明くる時土民はオ、ツイゴアブよ凡ての父よと呼んで顔を東に向けて祈る。曰くツイゴアブは復讐者なり故に彼等はオ、ツイゴアブよ我の罪なきを知る者は唯汝あるのみと云ひ或は汝の思ふまゝの振舞せよされど汝はツイゴアブを見出さんとは彼の神汝を見出し汝を罰せんとの意なり。韋陀の暗神 Baranya が希臘にては復讐神 Erinys となれるに同じと云ふ。曰くツイゴアブの敵は Gansub なりガンナブは眠と死を送る破壊者なり。ハーン氏は之を黒き夜の事とせりと。

かくて赤き暗又諸の父の父なるツイゴアブは後己が種族の祖先とせられたるなり。かくて彼は一度地上に住ひし者として又妻子を有し多くの勇行をなし、者として拜せらるゝに至りしなり其所業中の最大事は蓋し毎朝若しくは毎年行はるゝガンナブ(即ち暗者)との戦争なりとす。若し夫れ Erinys には赤の意味が亡くな

り Gosh も暗よりは寧ろ膝の義に用ゐらるゝが通例となれるの時代に於ていはけなき兒孫等が母や祖母にツイゴアブの話聞せよとせがまんには親達は子供に如何に語り聞かすやらむ。痛き膝てふ其名に因める譚の出つべきは豈自然の勢ならずや。

ツイゴアブと同じ運命を受けたるが此他の名にもあり例へば流るゝ雷雲の義なる Namb は神又は祖先の名となり時としてはツイゴアブと同様に用ゐらる。Gurub (雷)は 雷 (蔽ふ)てふ語より出て元は蔽ふ雲及暗(梵語の Vritra)の義なりしが後には前二者と同様に一種の人格とはなれり。土民は此三者に雨及其他上天よりの恩澤物を祈る。特にグルブには人を叱責せざるやうにと祈りツイゴアブには雨と食物とを賜はれと祈るとぞ。

若し夫れツイゴアブを以て實在の一老醫なりしとせんか。さらばグルブ(雷)も亦一つのホツテントットなりしとせざるべからず。ナヌブ(雲)は一つのブシマンなりしとせざるべからず。かく云は、スペンサー氏は或は雷、電光、暗、雲等の名を有てる人間あることを指示し以て自説を主張せんとし玉ふならむ。吾人は之を否定する能はじ。蓋し事實は小説よりも奇なり。神話——開化人の夫にもあれはた野蠻人の

夫れにもあれ——が語る如き奇怪なる出来事も、其通りの名の人間が實際に遭遇したる所なるやも知るべからず。かゝる事あり得ずとは断じ難ければなり。兎に角以上、神話の不合理的分子説明の二方法中、人は其何れかを撰ばざるべからず。され、パーン氏が書は我等の味方へ法馬を投ずるものゝ如し。

宗教學綱要附録(終)

明治四十一年十二月十七日印刷  
明治四十一年十二月二十日發行

(定價金五十五錢)

譯者 清水友次郎

發行者 高島大圓  
東京市小石川區原町六番地

印刷者 佐久間衡治  
東京市京橋區四紺屋町廿六七番地

印刷所 株式會社 英舍  
東京市京橋區四紺屋町廿六七番地



發行所

東京市小石川區原町六番地  
振替貯金口座一五六八六番

丙午出版社

文學士 渡邊又次郎先生著

### ◎最新論理學

本書は新學の泰斗たる著者が學界の缺陷を補はん爲めに特に選述せる所に依り所論の明晰にして内容の整頓せる簡潔平易なる叙述の中に學士の卓見を洩したる所に他に見ざる老練の大著なり又欄外に重要な題目を掲げ卷末に英語を對照せる詳細の索引を附したるが如き讀者の便益之に過ぐるものなるべし。

東洋大學講師 釋清潭先生著

### ◎寒山詩新釋

是れ佛か是れ仙か是れ狂漢か得て解すべからざるものは寒山詩なり是れ韻語か是れ詩語か是れ佛語か得て解すべからざるものは寒山詩なり宜なり千古の疑問牢固として披けざること著者精深雄大の學と才とを以て一筆勿斷彼が面目ここに於てか露出す寒山詩を知らむと欲するものは須らく此書を以て指南車となすべし。

清水故默爾先生遺稿

### ◎紫風全集

清水君は學界の元勳島地默爾の第二子にして其篤學能文既に世に定評あり往年大志を懷きて印度に留學し佛敎經典の研究に從ひ又大谷光瑞氏が佛敎大探險の壯舉に加はりて功績頗る大なる者ありしが不幸にして未だ大に其學を世に施くに至らずして異境に病歿す知友之れを哀しみ其生前遺稿を採りて集めて茲に之を公にす論文あり俳句あり漫筆あり書簡あり悉くこれ金玉の名文君が天才的詞藻の傑として輝けるを認め得べし。

文學博士 村上專精先生著

### ◎女性訓

本書の内容は天職、中庸、賢淑、謙遜、節操の五訓を以て女子座右の箴言となすにあり多年女子教育に經驗を重ねたる村上博士はよく女性の缺點を擧み來りて之を訓誡すその親切實に至り盡せり凡そ世の淑女たらむと欲する者は必ず其の座右を離すべからざる珍書なりとす。

文學博士 村上專精先生著

### ◎誠のしるべ

誠は實に人生の基礎をなすものにして政治も實業も宗教も道德も教育も凡て此の根底の上に立たざるべからず今や村上先生古今東西の事例を引いてその然る所以を詳記せらるる苟も誠を體得して眞の人たらんと欲するものは此書を讀め。

文學博士 村上專精先生著

### ◎自信錄

これ博士の著にして又實に博士が信仰の告白なり言々己の實驗を語り句々心の奥底を披露すまづ筆を「人生の目的」に起して「目的の成否」を明にし「實在と我れ」「佛陀と我れ」の關係より「自力と他力」の異同に及びて之を結ぶ五章廿七節説いて至らざるなく述べて盡さざるなし進歩せる佛敎學者の見解は此の書によつて窺ふべく較度なる佛敎信者の態度は此書によつて知るを得べし。

黑岩周六先生講演 丙午出版社編

### ◎人生問題

人生とは何ぞや、是れ千古の疑問なり、哲人之を説き碩學之を論じて、而して懷疑の雲益々密に、苦悶の人愈々多からむとす、然るに現代思想界の泰斗黑岩先生、自ら人生問題に達着して、疑問の源泉を探り、大に其深趣を得て、茲に此書あり、叙る所、神の有無に始まり、人生の悲觀樂觀に終る、眞に天賦の妙音なり、世の悶ある人、疑ある人、速に來つて此編音に接せし、庶幾くは平穩と満足と活力とを得て、温く且つ光ある人生に觸着することを得ん。

新公論社編 ○附録學生銷夏法

### ◎男女學生氣質

此書は坪内雄藏、柳橋、幸田、村上、三輪、田原、佐々木、小治、實然、山崎、子、中村、五子、越山、春子、本多、清一、南條、文雄、小杉、天、外、山、縣、三、郎、前、田、三、郎、井、上、圓、了、島、田、三、郎、松、村、介、石、磯、邊、一、郎、戸、川、鏡、花、給、木、寿、太、郎、石、黒、忠、徳、遠、藤、水、中、川、謙、次、郎、南、岩、倉、具、成、柳、橋、一、郎、寺、田、勇、吉、フ、オ、ス、タ、坂、本、盛、徳、加、納、久、宜、古、川、流、泉、田、中、治、六、加、藤、咄、堂、境、野、黄、洋、中、島、徳、藏、下、田、次、郎、等、の、大、家、が、現、代、男、女、學、生、の、長、短、兩、方、面、を、觀察、し、其、の、長、所、を、助、け、其、の、短、所、を、補、ふ、キ、方、法、を、示、さ、れ、た、る、の、り。

文學博士 松本文三郎先生著

### ◎宗教と哲學

本書全篇十有餘章まで筆を宗教と哲學との根本問題に起し宗教と道德研究と信仰等次第を逐うて遂に健全なる宗教の基礎は哲學的論議にある事を闡明す益し病弱なる現代思想界は此書に因りて始めて元氣の回復を求め得むなり。

定價金四拾錢 郵税金六錢

定價金四拾錢 郵税金八錢

定價金五十錢 郵税金八錢

定價金五十錢 郵税金八錢

阿彌陀佛 定價金卅五錢 郵税金六錢

### ◎阿彌陀佛

阿彌陀佛とは何ぞや、是れ佛敎の根本問題也ケイラス博士その影響を揮ひ殆ど小説的結構を以て通俗に之が解釋を試む宜なりその歐米譯書界に好評噴々たるを察し茲に十年博士と居る同じうし最も博士と親善なる大拙居士を煩はして此和譯を得たり豈嘗に佛の有無に惑ひ心の不安に關ゆる人のみこれを讀むべしと言はむや。

文學博士 三宅雄二郎先生著

### ◎小泡十種

博士の學殖富麗に博士の見識卓越に博士の文章超凡なること世既に定評あり今この學と識と文とを傾倒してこの著を作す政治を論じ宗教を説き文學を語り人物を評すその筆の向ふところ流れては治世をさざる大河となり、敢ては紙粉限りなき飛沫となる小泡か激濤か益し近代稀有的の快著なり。

ペーグマン先生原著 杉村縱横先生譯補

### ◎改訂強肺術

肺病を恐るゝものは強め、肺病に罹れるものは強め、歐米に於ける最新式の體力養成法を讀め、此書に六の特色あり。  
第一、時間を要せざること。第二、費用を要せざること。  
第三、場所を要せざること。第四、努力を要せざること。  
第五、習文一致なること。第六、總より假名付なること。  
故に男子は勿論、婦人小兒と雖も、容易に理解し容易に實行し、■して確實に其功を收め得べし。

定價金四十錢 郵税金四錢

定價金四十五錢 郵税金八錢

堺利彦、森近運平兩先生共著

### ◎社會主義綱要

定價金四十錢 郵税金八錢

近時社會主義の理論及運動は頗る世人の注意を惹くに足るものありと雖も、未だ其學說の概略を窺ふことなくして徒らに附和雷同する者、或は輕々之を攻撃するもの頗る多く、殊に多少の教育ある人士にして社會主義に對して評論を試むる者の如き其無知實に驚くべきものあり。然るに此等人士の一讀すべき邦文の書籍極めて少なく、偶々之あるは二三の翻譯と時事に對する社會主義者の評論に過ぎず。科學的社會主義の原理、各問題の解釋其史的發展及現今の階級に就いて系統的に叙述したるものに至つては絶えて之あることなし。著者此缺陷を補はんと欲して筆を執り、平易而明の文を以て深遠なる學理難解なる問題を解釋したる者即ち此書也。特に反對論に對する辯駁と社會主義運動の現狀との二章は、斯主義に對して毫も興味を有せざる人々も見落すべからざる處なり。今や地下學問の好季、社會各階級の人士に向つて此書を薦む。

橋 惠勝 先生著

### ◎淨土教發達史論

定價金六拾錢 郵税金六錢

精確なる史料により、明透なる識見を以て、前人の等閑に附したる印度に於ける淨土教の淵源を究尋して、東漸以來、一に二千餘年の間、誤傳せし歴史の誤見を破し、佛敎歴史の真相を顯彰し、大乘非佛敎問題に疑案を下したる、空前の研究なり。佛敎これによりて粉砕せられ、佛敎これによりて躍如たらん。若佛敎これによりて假面が剥かれ、新佛敎これによりて光輝を放たむ。請ふ精讀を賜へ。

文學博士 法學博士 男爵 加藤弘之先生著

### ◎迷想的宇宙觀

定價金七十五錢 郵税金八錢

昨年八月「吾國體と基督教」を刊行せし以來、其批評續々として既に數十種に上れり、仍て今般その批評に對して、更に批評を試み且つ簡單なる二大問題を擧げて讀者にその解答を乞へり、基督教が迷信なりや否や又吾國體に有害なりや否やはその解答の如何によつて解決せらるゝを得べしと信ず大方の君子負れて批評せらるゝこともあらば幸甚。

明治四十一年七月

著者 加藤弘之 敬白

フーナー、フアイト氏原著 東洋大學講師 中島德藏先生述

### ◎倫理學原論

定價金五十五錢 郵税金八錢

フーナー、フアイト氏の『倫理學原論』は快樂論と觀念論との二大立脚地の調和を試みしものにして、理論的に卓抜の見に富みしのみならず、又當時社會の實際問題を捉へてこれに明快なる解答を與へし一新著なり、これを以て吾國にても大島學士の翻譯によりて已に紹介せられつゝあり、然るに譯文に慣れぬ讀者は往々その眞意を解する能はざるを遺憾とし、これが解説を求むるもの少からず、仍て一々質疑解答の勞を省かんため各篇各章の順を追うて殆ど各節毎に其の大意を取り最も簡易に明瞭に讀者をして原著者の意を窺はしめむと力め且つ體過繁餘の弊を以てこれに批評を試みたるものは本著なり。

明治四十一年七月

譯述者 中島德藏 敬白

文學博士 井上四了先生新著 ○繪はがら寫真版數十葉入

### ◎西航日録

定價金四拾錢 郵税金四錢

是れ、井上博士の洋行土産なり、歐米に於ける、教育、宗教、文學、政治、經濟等の現況は、博士が周到なる觀察と、輕妙なる文辭とによりて、此に躍動す。征露の戰爭に於て、武名を世界に輝したる日本の國民は、また世界の大事に通ぜざるべからず、請ふ一本を購へ。

楚人冠 杉村廣太郎先生著

### ◎七花八裂

定價金六十錢 郵税金八錢

著者曰く、此書は、著者が、名に畏れず、戀に泣かず、半錢の價を償はず、半個の籠に庇はれず、天上天下、一點半畫も、他の軀に受るることなくして、縦に我が見得底を披露せる者、過去十三年間の悪文惡詩、收めて此の一卷の中に在り。著者の如く、重乏し、著者の如く墮落せんと欲する者は、請ふ此書を讀め。

文學博士 村上專精先生編

### ◎科原人論

定價金十二錢 郵税金二錢

右の二書は共に筆記書入れ等に便せんがため、本文の上下に空白を存し置きたれば、學校の教科書、學會の讀本として、最も適當なり。

### ◎科大乘起信論

定價金十六錢 郵税金二錢

慈雲尊者真傳 高橋順次郎氏序 阿彌得壽先生著

### ◎悉曇阿彌陀經

定價金壹拾四錢 郵税金八錢

悉曇阿彌陀經とは古來日本に傳はりたる梵文阿彌陀經即ち極樂莊嚴大乘經なり。特に悉曇と冠語せしは、新體梵字に簡便人が爲めなり。梵文に加ふるに漢字羅馬字音を附し脚註には馬博士の訂正本との異同をあげ終りに訂正本、辭書、唐桑二譯を掲げたり。學者此の書に依れば、悉曇學の一端を窺ふに易からん。

子爵 渡邊國武先生著 (印刷中)

### ◎無邊禪話

定價金 錢 郵税金 錢

これ一代の爲政家、渡邊子爵の活禪話なり。天を説き、世を説き、人を説く。即ち宗教論あり、處世論あり、修養談ありて、無邊快談の眞面目實にこゝに躍動す。強ひてこれを賣らむことを求めず、たゞこの書を讀める人の人格が、如何に光を増さむかを想うて、これを慶せむとするの念禁する能はざるなり。

曹洞宗大學講師 忽滑谷快天先生著

### ◎達磨と陽明

定價金七十五錢 郵税金八錢

本書は王禪二學を比較對論して禪學の精髓を發揮すると同時に王學の眼目を掃開して餘蘊なく進徳の工夫修養の方法爲學の用心精神鍊磨人格養成等一として備はらざるなし眞に是れ精神界の指南針にして亦實踐道徳の指導者たり。

東京帝國大學講師 文學士 常盤大定先生著

### ◎釋迦牟尼傳

定價金七十錢  
郵税金八錢

佛傳の大部を占むるものは神祕なる傳説なり。世人或は直にこれか採殺して顧みざるべしと雖も、これ等の傳説が、古來深く佛徒の頭腦を支配せるより見れば、その裏に何等かの意義を有せざるはなかるべし。此著は、主として、是等の傳説の起原を尋ね、意義を究め、南北兩傳、大小兩系の相違を比較對照し、以てこの千古の大聖釋迦牟尼佛の眞面目を傳へむとするに在り。著者常盤大定先生夙に佛學能文を以て聞え、殊に佛傳の研究に従ふものこゝに年あり、此著の價值、蓋し推知し得むか。

アー、エフ、スモンツワ、先生原著エル、ヒツシエル先生增訂  
ドクトル、フイロソフイ、萩原雲來先生譯補

### ◎梵語入門

定價金壹圓  
郵税金八錢

歐亞言語の源流を窮めんと欲する人は梵語を學ぶべし、宗教の千端萬狀を知らんとする人も梵語を學ぶべし、東亞文明の根柢を探らんとする人も梵語を學ぶべし。我邦一部人士の梵語を學ぶものあるも彼等は或は歐語の梵字典を使用す、されど歐語梵字典を用ゐんば、第一歐語を學ばざる可からざる不便あり、第二價格低廉ならず、今以上二種の缺點を補ひ梵字典に指を執むるの初歩たらしめむがために、創りて本書を公にす、自今以後荷も英字母二十六を讀み得る人は、尙少なる代價を拂つて、悉く梵語を學ぶを得べく、梵本を讀むを得べし。

前文部次官澤柳政太郎先生序  
スタンフオールド大學總長ジョルダン博士原著  
マスタ、オプ、アーツ中村平先生譯

### ◎人物の修養

定價金五十錢  
郵税金八錢

ジョルダン博士は當今世界有数の學者にして北米第一流の人物なり且外國人中最も深厚なる同情を我日本及日本人に寄せらるゝ紳士なり我國人がその所説その意見を知らむと欲するの情並に之を知ることに依て利すること難からざるは百を俟たず大方の君子爲くは本書に對し尊敬と同情とを表して博士に報ゆる所あれ。

東洋大學講師 境野黃洋先生著

### ◎增補聖德太子傳

定價金五十五錢  
郵税金八錢

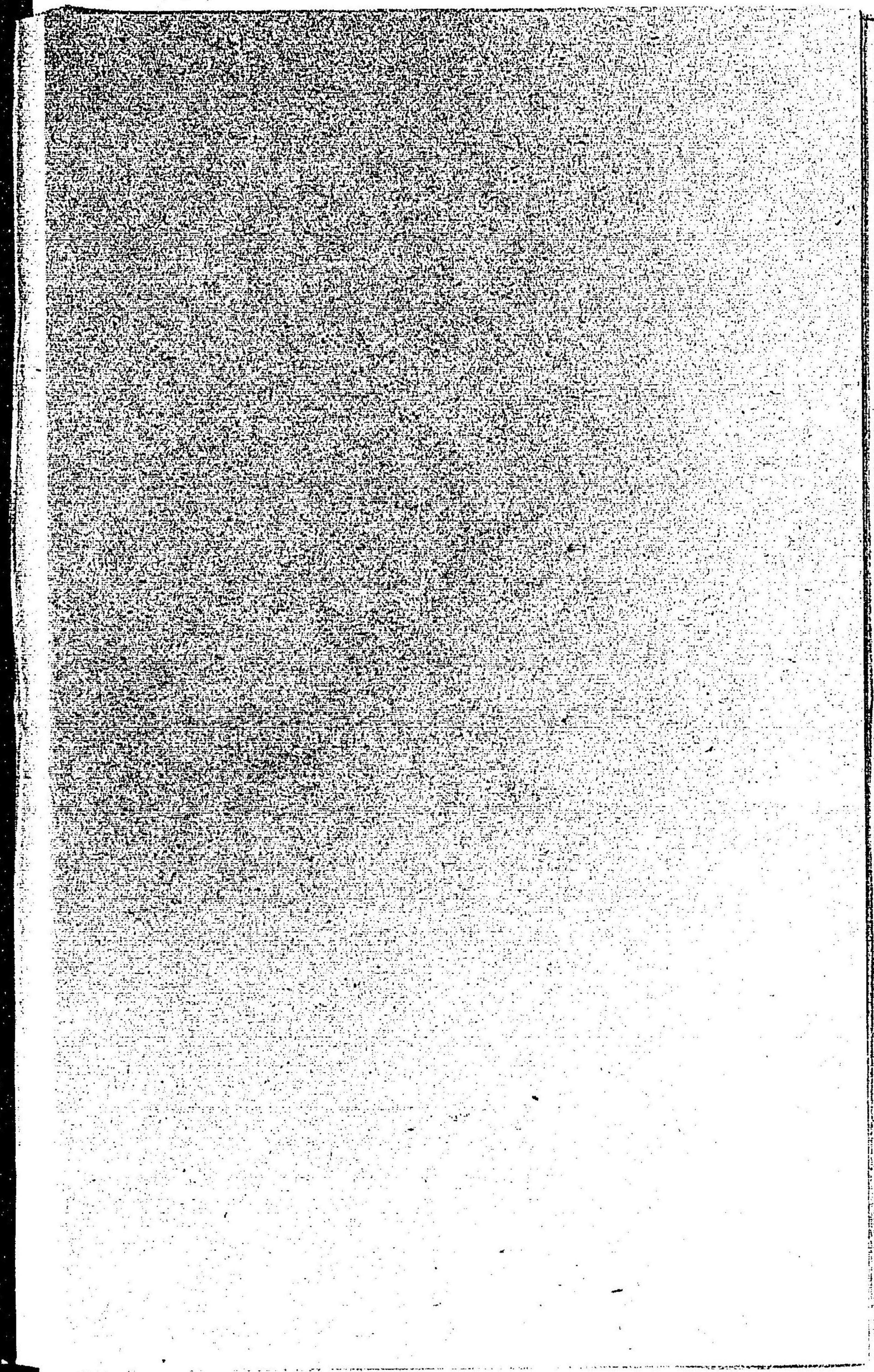
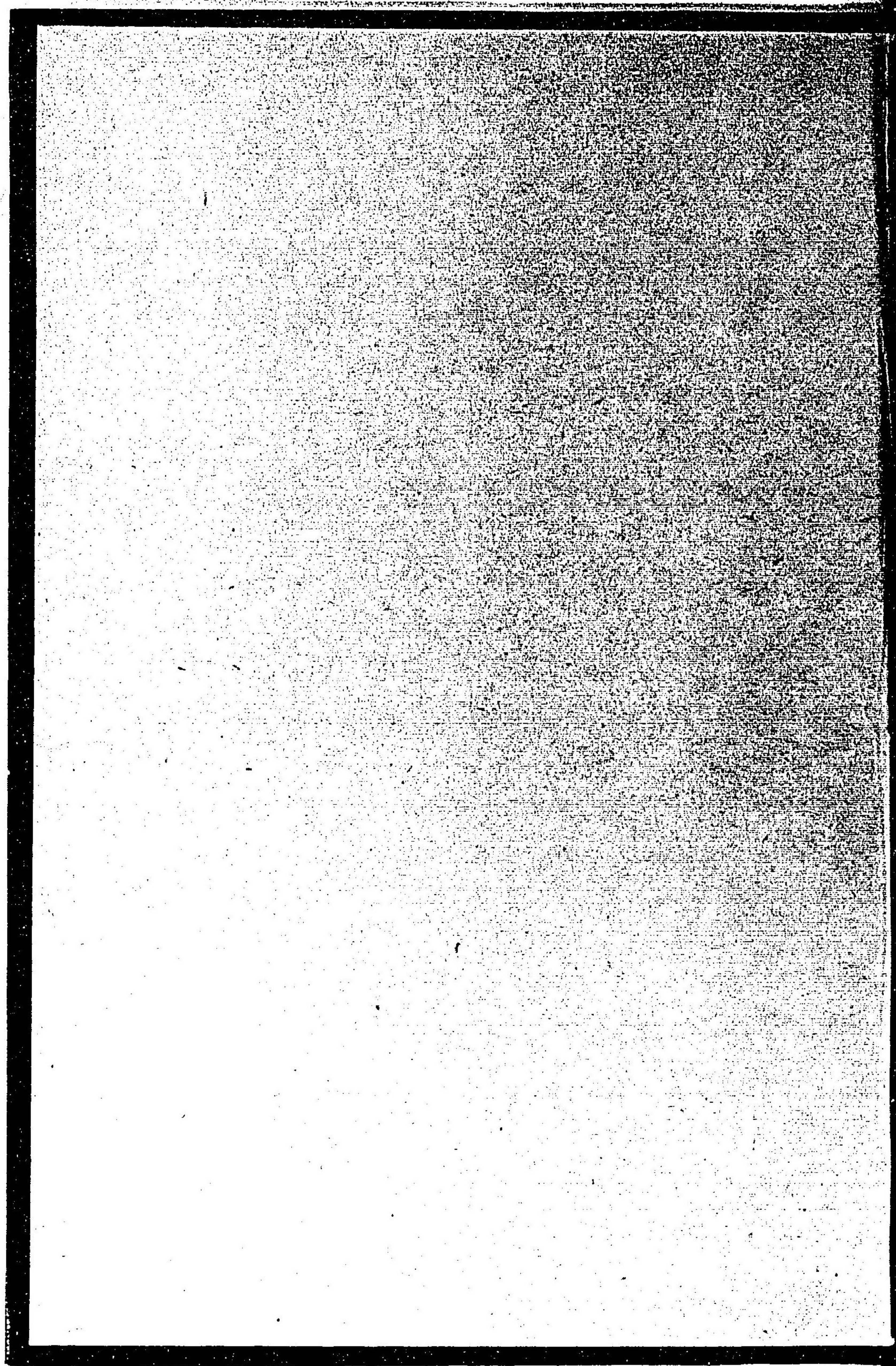
佛敎史家として夙に名ある境野先生が其の燃犀なる史眼と同熱せる文才とを傾倒して日本文明の開拓者日本佛敎の教主たる聖德太子の事蹟を叙述し併て當時社會の政敎習俗の特色を發揮したる名著にして文章の明快論斷の適確眞に他に其匹を見ざる所。

マクス、ミユラー博士原著

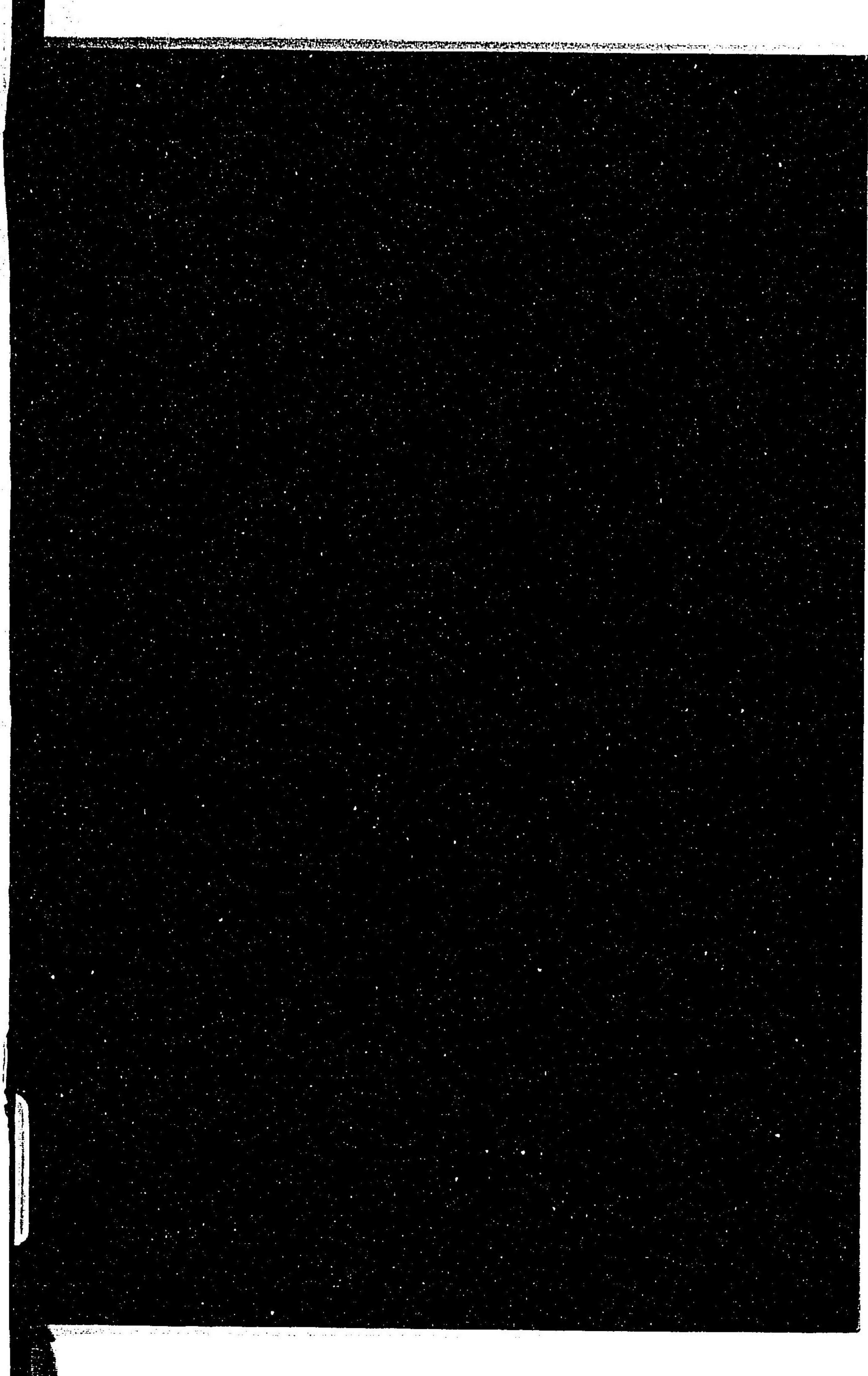
### ◎宗教學綱要

定價金五十五錢  
郵税金八錢

佛敎大學敎授 文學士 清水友次郎先生譯  
清水學士佛敎大學に敎授として宗教學を講ずるや近代稀有の宗教學者マクス、ミユラー博士の原著を譯本とし隨つて譯し隨つて敎ふ今これを補訂調飾して以て世に公にす蓋し邦文の宗教學書として唯一無二の眞寶なり。







324  
108

013602-000-5

324-108

宗教学綱要

マクス・ミュラー/著

M41

ABA-0071



